

2021. 7. 25 (日) マタイ26:26~30

26:26 また、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」

26:27 また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。」

26:28 これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。

26:29 わたしはあなたがたに言います。今から後、わたしの父の御国であなたがたと新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは決してありません。」

26:30 そして、彼らは賛美の歌を歌ってからオリーブ山へ出かけた。

<説教>

今日の箇所初め〈一同が食事をしているとき〉(26)は、先主日に見た〈皆が食事をしているとき〉(21)と全く同じ語句で、この〈食事〉はもちろん〈過越の食事〉(17)です。

千数百年前、神の命令に従って子羊を屠り、その血を門柱と鴨居に塗っていたイスラエルの家は御使いが過ぎ越し、その家の長子が殺されずに済んだが、神を信じなかったエジプトの家の長子は皆殺されてしまい、こうしてついにイスラエルの民はエジプトの奴隷支配から解放されることになった、その神による救いを記念し、神を礼拝し、神に感謝するのが過越の祭りでした(その祭りのたびに神殿で子羊が屠られ血が流されていました)。

〈過越〉は初めから、子羊が殺されて血を流し、その血によって罪と悪魔の支配から救われるという原理で成り立っているのであり、今やイエス・キリストが「世の罪を取り除く神の子羊」(ヨハネ1:29)として十字架で死なれ血を流そうとしていたのです。

そのイエスが弟子たちとの地上で最後の過越の食事をしているとき、〈パンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」〉(26)

イエスは〈わたしのからだ〉として、子羊の肉ではなく〈パン〉をお示しになりました。

なぜ子羊の肉ではなかったのかはわかりませんが、もはや子羊を屠って血を流す必要は今後なくなる(なぜならイエスが血を流されるから)が故だと考えていいでしょう。

過越の祭りのたびに子羊を屠り、血を流し、その肉を食べる必要はなくなるのです。

イエスは〈パン〉を〈取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて〉「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」と言われました。

「ここでわたしが取り、神をほめたたえて裂き、あなたがたに与える〈パン〉を食べるあなたがたは〈わたしのからだ〉を食べるのだ、つまりわたしの肉を食べるのだ」とイエスは言われたのです。

ということは、「わたしがあなたがたのいのちの真の糧、養いなのだ」ということであり、「あなたがたはわたしとともに生きるのだ」ということでもあります。

このことはヨハネの福音書6章でよくよくイエスが語っておられます。

「わたしはいのちのパンです。あなたがたの先祖たちは荒野でマナを食べたが、死にました。しかし、これは天から下って来たパンで、それを食べると死ぬことはありません。わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生

きます。そして、わたしが与えるパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。」(ヨハネ 6:48-51) 「まことに、まことに、あなたがたに言います。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物なのです。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしもその人のうちにとどまります。生ける父がわたしを遣わし、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです。これは天から下って来たパンです。先祖が食べて、なお死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きます。」(同 6:53-58)

あなたがたの永遠のいのちのために天から来て、神があなたがたに与えてくださった〈いのちのパン〉であるわたしを「**取って食べなさい**」すなわち信じて受け入れなさいとイエスは言われたのです(あのときの弟子たちに言われ、今の私たちに言っておられます)。

「わたしの血(を飲む)」のことも最後の過越の食卓で続けて言われました。

〈また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。〉(マタイ 26:27,28)

〈わたしの契約の血〉は直訳すると「わたしの血、契約の」です(欄外注も参照)。

〈いのちとして宥めを行うのは血である〉(レビ記 17:11)、〈血を流すことがなければ、罪の赦しはありません〉(ヘブル 9:22)、ですから イエスの(が十字架で流される)血は〈**多くの人のために、罪の赦しのために流される**〉神の子羊の血なのです。

そのイエスの血は確かに〈**契約の血**〉です。

子羊の血のおかげでエジプトの奴隷支配から解放されたイスラエルの民に神はシナイ山で十戒を中心とするみことばを与え、民は「主の言われたことはすべて行います。」(出エジプト 24:3)と答えました。

すると、モーセは祭壇を築き、モーセに遣わされたイスラエルの若者が全焼のいけにえを捧げ、雄牛を主に捧げました。

モーセはその雄牛の血の半分を祭壇に振りかけ、契約の書を民に読んで聞かせると民は「主の言われたことはすべて行います。聞き従います。」と改めて誓いました。

するとモーセは残りの半分の血を民に振りかけて、「見よ。これは、これらすべてのことばに基づいて、主があなたがたと結ばれる契約の血である。」と宣言したのです。

こうして〈**契約の血**〉を降り注がれた民は神の契約に入れられ、神の民とされたのでした。

しかしそのようにして神の恵みによって神の民とされた人々は何度も繰り返しすぐに神の契約を一方的に破ってしまい、当時に至っていたのであり、弟子たちも紛れもなくその中の一人一人でした。

ここでイエスが〈**杯を取り**〉、「**みな、この杯から飲みなさい**」と言って 〈**契約の血**〉としての「わたしの血」を弟子たちに飲ませたということは、すぐに神の契約を破ってしまう罪深い弟子たちを初めとする〈**多くの人**〉の、即ち私たちの、〈**罪の赦しのために**〉イエスが十字架でご自分の血を流されるということでした。

そしてやはり「この杯から飲みなさい」と言って、この新しいまことの〈契約の血〉をもってあなたがたの罪を贖うわたしを信じて受け入れなさいとイエスは言われたのです（あ那时的の弟子たちに言われ、今の私たちに言っておられます）。

「今から後、わたしの父の御国であなたがたと新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは決してありません。」と言われたように、十字架の死（と復活と昇天）の故に、〈過越の食事〉が地上の主の「最後の晩餐」となりました。

しかしイエスの肉を食べ、血を飲むあなたがた、即ち信仰をもってイエスを受け入れ、すぐに神の契約を破ってしまう罪を悔い改めつつ、主がお定めになったとおりに〈主が来られるまで主の死を告げ知らせ〉（I コリント 11:26）て主の聖晩餐を正しく執り行うあなたがたとは〈わたしの父の御国で〉〈新しく飲むその日〉が確かに来るとイエスは弟子たちに、私たちに約束してくださったのです。